# 追憶馬淵 ▸

# 馬淵之子的乃父之風

## 息子から父・馬淵東一への思い

마부찌의 아들, 부전자전(父傳子傳)

Like Father, Like Son: How Closely Mabuchi Satoru Resembles his Father, Mabuchi Toichi

文｜編輯部

日本語翻譯｜尾原仁美

8月27日下午，由馬淵悟教授擔任論壇第三場專題演講的主講人，演講「有關馬淵東一未發表的原稿〈布農族與鄒族的親屬名稱（二）〉」。該篇論文是馬淵東一尚未發表的手稿之一。

### 身為父親與學者的馬淵東一

主持人為武藏大學社會學部小川正恭教授，亦是馬淵東一的學生之一。切入演講主題前，他分享了一段私下與馬淵悟教授交談的內

演講人馬淵悟教授（左）及主持人小川正恭教授（右）。
講演者は馬淵悟教授（左）、座長は小川正恭教授（右）。
（圖片提供：編輯部）

8月27日午後、馬淵悟教授によるフォーラム第3セッションの講演「馬淵東一未発表原稿『ブヌン・ツオウ両族の親族名称（二）』について」が行われた。この論文は馬淵東一の未発表原稿のひとつである。

### 父親であり学者だった馬淵東一

司会は馬淵東一の学生だった武蔵大学社会学部の小川正恭教授。講演に入る前に、小川教授は馬淵悟教授と個人的に話した内容を披露した。馬淵悟教授は最近になって、自分の外見や行動、反逆精神が父親である馬淵東一によく似ていることに気付いたという。馬淵悟教授は大学3年（21歳）の時、馬淵東一に連れられて台湾へ来、海岸アミ族のフィールドワークを行った。父親の影響を受けたその時のフィールド経験が、馬淵悟教授が自身で研究、学習し、独立する道を開いたという。

馬淵悟教授の回想によれば、馬淵東一が亡くなる前年に癌が見つかって入院した時、こ



政大原住民族研究中心

馬渕悟教授展示父親未發表的原稿〈布農族與鄒族的親屬名稱（二）〉。
馬渕悟教授が父親の未発表原稿「ブヌン・ツオウ両族の親族名称（二）」を披露。（圖片提供：編輯部）

馬渕悟教授將珍貴的手稿贈送給政治大學原住民族研究中心。
馬渕悟教授が貴重な手書原稿を政治大学原住民族研究センターに贈呈。（圖片提供：編輯部）

容。據他表示，馬渕悟教授直到最近才發現，原來自己的長相、行動或是反叛精神，都跟父親馬淵東一很像。馬渕悟念大學三年級時（21歲），被馬淵東一帶到台灣，丟在海岸阿美地區做田野；因為受到父親的影響，那次的田野經驗開啟了馬渕悟自己的研究、學習、獨立之路。

馬渕悟教授回憶道，父親在去世前一年發現罹癌，入院當時曾對他說：「我已經不做台灣原住民族的調查了，但如果病能夠好的話，我一定要做追蹤（各地的姐妹神信仰）。」馬淵東一會說這番話的前提是，那時的台灣原住民族研究，已經出現好幾位本族的研究者，而台灣學者也逐漸增加，所以已經不再需要他了。馬渕悟教授又說，倘若不將馬淵東一當成父親，而是視為一位研究者的話，馬淵東一在台灣進行的原住民族研究其實是非常成功的。

在1970年左右，當時年輕一輩的日本學者，已經陸續投入原住民族研究，像是末成道男先生、松澤員子、山路勝彥、笠原政治等。馬渕悟本身的研究領域是阿美族，而前述這幾位日本學者，應該算是戰前與現代台灣原住民族研究之間的一座橋樑。雖然關於台灣原住民

う言ったそうだ。「私はもう台湾原住民族の調査はしなくなったが、もし病気が良くなったら、必ず（各地の姉妹神信仰の）追跡調査をしたい」と。馬淵東一がこう言った前提には、当時台湾原住民族研究にはすでに原住民族の研究者が何人も出ており、台湾の学者も少しずつ増えていたため、自分はもう必要なくなった、という含みがある。馬渕悟教授はまた、もし馬淵東一を父親ではなく一人の研究者として見るなら、馬淵東一が台湾で行った原住民族研究は非常に成功したと言える、とも語った。

1970年頃には末成道男、松澤員子、山路勝彦、笠原政治といった若い世代の日本人学者が次々と原住民族研究に踏み込んでいった。馬渕悟教授の研究領域はアミ族で、また前述した日本人学者たちは戦前と現代の台湾原住民族研究の間の架け橋だと言える。台湾原住民族の学術研究は完璧だとは言えないとしても、馬淵東一は台湾原住民族研究の大勢は固まったと見て、継続した追跡調査が必要だと考えたのだろう。今回のフォーラム参加者の顔ぶれを見ても、世代が幅広く、台湾の学者

政大原住民族研究中心

1970年進行卑南族調查留影；後排右一為馬淵東一，前排左一為馬渕悟。
1970年に行われたプユマ族調査での一枚：後列右端が馬淵東一先生、前列左端が馬渕悟先生。（圖片提供：馬渕悟）

族的學術研究不能說是完備，但是對於馬淵東一而言，台灣原住民族研究已大勢底定，所以才需要繼續追蹤。如今參與論壇的，在座老中青三代、台日學者皆有，就表示台灣原住民族研究的網絡已經擴大了。

## 馬淵東一的未發表手稿

馬渕悟教授拿出馬淵東一〈布農族與鄒族的親屬名稱（二）〉的手稿，將時間拉回了昭和7年（1932年）的夏天。馬淵東一因為台北帝大土俗人種學研究室所編的台灣高砂族系統所屬研究之需要，在鄒族進行最後一次的調查。

馬淵東一過世後，未發表稿當中的〈高砂族の冠婚葬祭〉已經印刷出版了，非常厚。至於馬渕悟在這次論壇所發表的〈布農族與鄒族的親屬名稱（二）〉也是未完稿，內容跟（一）有許多的共通點。不過馬渕悟教授認為，若從回溯馬淵東一研究軌跡的這個角度來看，這篇論文仍是值得一提、頗具意義的。馬渕悟教授表示，馬淵東一的未完稿還有一篇名為〈稻米儀禮〉，現在仍擱置在那裡沒有整理。

至於〈布農族與鄒族的親屬名稱（二）〉

1970年進行卑南族調查留影；後排左一為馬淵東一，前排左一為馬渕悟。
1970年に行われたプユマ族調査での一枚：後列左端が馬淵東一先生、前列左端が馬渕悟先生。（圖片提供：馬渕悟）

も日本の学者もおり、台湾原住民族研究のネットワークが拡大したことがわかる。

## 馬淵東一の未発表原稿

馬渕悟教授が取り出した馬淵東一の「ブヌン・ツオウ両族の親族名称（二）」の手稿は、時間を昭和7年（1932年）の夏に引き戻した。馬淵東一は当時台北帝国大学土俗人種学研究室が行っていた台湾高砂族系統の研究の必要から、ツオウ族の最後の調査を行っていた。

馬淵東一の死後、未発表原稿の中から「高砂族の冠婚葬祭」という非常に長い文章がすでに印刷出版されている。馬渕悟教授が今回のフォーラムで発表した「ブヌン・ツオウ両族の親族名称（二）」は未完成原稿で、内容は（一）と多くの点で共通している。しかし馬渕悟教授は、馬淵東一の研究の軌跡をたどるという角度から見れば、この論文は注目に値し、大きな意義を持つという。馬渕悟教授によると、馬淵東一の未完成原稿にはもう一篇「稲米儀礼」があるが、現在はまだ未整理の状態で置いてあるという。



政大原住民族研究中心

1970年進行卑南族調查留影；後排右一為馬淵東一，後排左二為馬渕悟。
1970年に行われたプユマ族調査での一枚：後列右端が馬淵東一先生、左から二人目が馬渕悟先生。（圖片提供：馬渕悟）

沒有出版的原因，馬渕悟認為應該是由於該文的內容，與馬淵東一以前所發表的布農族相關研究雷同。馬渕悟表示，身為原作者的兒子，參與這次的論壇似乎顯得有些理所當然；他今天是以原作者的身分在這個講台上發表文章，但以後會以自己的名義發表自己的研究。

## 一代馬淵留墓 二代馬淵留稿

這篇未出版的論文，馬渕悟教授希望能將其留在台灣、供人繼續研究，於是他要將手稿贈送給政治大學原住民族研究中心林修澈主任。此話一出，全場立刻報以熱烈掌聲，林主任亦受寵若驚地表示，這真是一份非常意外的禮物。對於馬渕悟教授的慨贈，「這大概是跟馬淵東一教授愛台灣，最後也埋在台灣的意思是一樣的。」林主任並允諾政大有幸接受這份寶貴的資料，一定不負美意，要將馬淵兩代的精神繼續發揚下去。◆

馬渕悟教授は、「ブヌン・ツオウ両族の親族名称（二）」が出版されなかった理由を、この論文の内容が馬淵東一が以前に発表したブヌン族関連の研究と重複しているからだろうとしている。馬渕悟教授は、原作者の息子として今回のフォーラムに参加したのは必然的なことだったとして、今回は原作者としての身分で壇上に立ち文章を発表したが、今後は自分の名義で自分の研究を発表したいと語った。

## 初代馬淵は墓を残し、二代目馬淵は手稿を残す

馬渕悟教授は、この未出版の論文を台湾に残し、誰かが引き続いて研究してくれるのを希望しているため、手稿を政治大学原住民族研究センターの林修澈主任に贈りたいと語った。馬渕悟教授のこの発言に、会場全体からは大きな拍手が沸き起こり、林主任は思いもしなかった贈り物に驚きと喜びを表した。そして、馬渕悟教授からの手稿の寄贈は「馬淵東一教授が台湾を愛し、最後に台湾にお墓を残したのと同じ意義を持つ」と述べると共に、政治大学はこの貴重な資料を寄贈された厚意を決して無駄にせず、二代にわたる馬淵教授の精神を引き継いでいくことを承諾した。◆

馬渕悟教授贈政大的馬淵東一手稿。
馬渕悟教授が政治大学に贈呈した手書原稿。

政大原住民族研究中心